



《誌上キャンパスツアー》

「知」の空間を 探訪する

古代ギリシアの哲学者プラトンは紀元前4世紀、アテネ近郊に位置する

アカデモスの森に「アカデメイア」を創設。

今日、「アカデミー」などの語にその名を残すこの学園に

同時代の叡智が集い、幾何学や天文学などの学問が花開いていきました。

その人類の「知」の資産は今日、大学という空間に集い、

さらなる発展を目指し教育・研究活動が日々営まれています。

「学問」の未来に向かって開かれた、

豊かな扉の“向こう側”を訪ねてみませんか。



学習院大学

西1号館

キャンパスには中央教育研究棟や南7号館（理学部研究棟）など、最新設備を備えた教育研究施設はもちろん、南1号館や北別館（史料館）、東別館のように、歴史と伝統を感じさせる、風格ある建造物も建ち並んでいます。

なかでも「西1号館」は、英国の名門イートン校をモデルとして1930（昭和5）年に建てられた、学習院大学のシンボルとも言える建造物です。国登録有形文化財にも登録されていますが、そのクラシックな外観とは異なり、内部は1999（平成11）年に全面リニューアル。31室の語学・演習用教室のすべてにマルチメディア機能が導入され、1人1台ずつパソコンを利用する授業にも対応するなど、現役校舎として今なお活躍しています。



慶應義塾大学

三田演説館

キャンパス内に建つ三田演説館は、日本最初の演説会堂です。1875（明治8）年に建てられた歴史的建造物で、1967（昭和42）年に国の重要文化財の指定を受けています。木造2階建て、寄棟造椽瓦葺屋根の擬洋風建築は、当時の米国の会堂の資料を参考に設計されました。移築や解体修復はあったものの、和風のなまこ壁や瓦屋根と、洋風の玄関ポーチや上下に開く窓が、140年以上の時の流れを経て違和感なく溶け合っています。エントランスから館内に入ると正面に演壇があり、演壇後ろのまるみを帯びた白壁の中央には福澤諭吉の立像肖像画が掲げられています。現在も年に数回演説会が開かれています。

青山学院大学

間島記念館

関東大震災後の校舎復興に際し、校友・間島弟彦氏が母校に図書館の建設費寄付を申し出られ、間島氏の死後、愛子夫人が氏の遺志を継いで1929年に間島記念図書館を建設。現在は「間島記念館」として当時の姿をとどめています。

青山キャンパス正門から正面奥に見えるコリント様式の外観の間島記念館は、青山学院の歴史と伝統の象徴です。

なお、2008年3月、間島記念館は「意匠的にすぐれた近代洋風建築であり、保存状態が極めて良好である」との評価を受けて、国登録有形文化財（建造物）に登録されました。



中央大学

2号館（後楽園キャンパス）

2号館は理工学部の最先端の教育研究拠点であり、現在、4学科（都市環境学科、精密機械工学科、生命科学科、人間総合理工学科）の研究実験施設が設置されています。

構造面では省エネルギーへの配慮をはじめ、より高い耐震性を担保すると同時に、内部は可能な限り柱をなくすことで、研究内容の変化に応じて容易に間仕切りが変更できるフレキシビリティを確保するなど、さまざまな技術的工夫が凝らされています。また、建設に伴って伐採された樹木を再利用したベンチや新たな試みを加えたアメニティーなど、「継承」と「創造」を表現した施設となっています。





法政大学

富士見ゲート

超 高層のボアソナード・タワーと、歴史を誇る校舎群が共存する市ヶ谷キャンパスでは、現在使用している55・58年館の建替工事を2014年から開始。1955年以来、学生が集い、学び、学園生活を謳歌する場所として親しまれてきた建物はその役割を終え、新世代の都心型キャンパスへと変貌を遂げます。

再開発計画では、2016年9月、ボアソナード・タワーと外濠校舎の間にあった正門の位置に大きな開口部を持つ「富士見ゲート」が完成しました。完成後ただちに新しい教室や食堂、学生ホールなどの利用が開始されています。キャンパスの南側には、「南棟(仮称)」の建設が進められます。



明治大学

明治大学博物館

駿 河台キャンパスにそびえるツインタワーの一角、アカデミーコムの地階を占める明治大学博物館。収蔵品の充実と調査・研究に努め、学部・大学院の特色ある教育研究に資するとともに、社会に開かれた「知」の窓口として進化を続けています。

常設展示室は、漆器、染織品、陶磁器などの工芸製品を紹介する「商品部門」、歴史的な法や国内外の拷問・処刑具など人権抑圧の歴史を語り伝える「刑事部門」、旧石器時代から古墳時代にいたる、明治大学の考古学研究の粋を集めた「考古部門」から構成。このほか、多彩な教育研究資源を公開する展覧会や講演会、体験学習型講座などのプログラムも実施しています。



早稲田大学

坪内博士記念演劇博物館

演 劇の早稲田”のシンボルである演劇博物館は、日本で唯一の演劇専門の博物館です。1928(昭和3)年10月、坪内逍遙博士が古稀の齢(70歳)に達したのと、その半生を傾倒した「シェークスピア全集」全40巻の翻訳が完成したのを記念して、各界有志の協賛により設立されました。

錦絵46,800枚、舞台写真400,000枚、図書255,000冊、衣装・人形などの博物資料159,000点など、およそ百万点にもおよぶ膨大なコレクションは、“演劇の歴史”そのものといえるでしょう。2018年に創立90周年を迎えますが、記念事業に向けた準備のため、2018年3月まで休館しています。



同志社大学

クラーク記念館

18 93(明治26)年に竣工(国指定重要文化財)。アメリカのB.W.クラーク夫妻がアメリカン・ボード(海外宣教団体)に申し出た寄付金をもとに建てられました。設計はR.ゼール。塔屋が印象的なこのレンガ建築は、同志社のシンボリック存在です。

老朽化のため、5年間にもおよぶ大規模な修復工事を行い、2008年3月、創建当時の姿に復原されました。なかでも2階の講堂は、「クラーク・チャペル」と命名され、礼拝をはじめ講演会や結婚式など、同志社のキリスト教主義の発信地として、また人々のメモリアルな場として、広く利用されています。

立教大学

本館(モリス館)

18 74年、創立者ウィリアムズ主教により築地に開設された立教学校(1907年立教大学に改称)は、1918年に現在の地・池袋に移転しました。その際に、米国聖公会宣教師アーサー・ラザフォード・モリス氏の寄付によって建てられたのが、「モリス館」の名で親しまれている立教大学のシンボル・本館です。

震災と戦災をくぐり抜けた、つたの絡まるチューダー様式の美しいレンガ建築は、東京都選定歴史的建造物にも選ばれました。中央時計台の時計はイギリス・デント社製、動力は分銅式で、今日でも3~4日に一度、手で巻かれています。建物の前にある中庭は、いつも学生でにぎわい、都会らしい活気があふれています。



立命館大学

衣笠キャンパス(京都)

20 16年4月、衣笠キャンパス(京都市)に「平井嘉一郎記念図書館」が開館しました。キャンパスのアカデミックシンボルとして、学生の学びの拠点、知的創造の場にふさわしい最先端の機能を備えた図書館です。館内にはセミナールーム、プレゼンテーションルーム、カフェなども設置し、長時間滞在したくなる快適な学習環境となっています。

また、各キャンパスの図書館内には「ピア・ラーニングルーム(呼称:びあら)」を設置。仲間(びあ:Peer)と共に創造的な学びのスタイルを身につけることができる空間として、グループディスカッションや情報機器を利用した学習活動など、目的に合わせて自由に利用することができます。



「知」の空間を
探訪する

関西大学

千里山
キャンパス

千 里山キャンパスは、1922（大正11）年の千里山学舎建設以来、本学の教学理念に基づく学術振興の拠点としての整備を続け、現在では各学部の学舎棟をはじめ多彩な施設を擁する総面積35万㎡におよぶ広大な教育・研究空間へと発展しました。都心からの交通の便に恵まれながら、千里山の丘陵地に広がる豊かな緑にあふれた立地は、創造性と自由な精神を育む大学として絶好の教育環境を備えています。学生が学習・研究に、課外活動に、みずからの可能性をかけて取り組む活気にあふれたキャンパスから、「関大スピリット」ともいうべき自由闊達な気風が育ち、その数々の成果が世界に向けて発信されています。



関西学院大学

時計
塔

関 西学院大学の西宮上ヶ原キャンパスは、日本で活躍した建築家W.M.ヴォーリズ的设计によるもの。1929年の移転以来、その美しさを誇り続けています。

赤い瓦屋根とクリーム色の壁の「スパニッシュ・ミッション・スタイル」で統一されたキャンパスの中心に位置するのが、関学のシンボル「時計台」です。今日もおその優美なたたずまいで、学生・教職員の知的探究の時を刻んでいます。開学当初から国際色豊かな環境で教育を行ってきた関西学院大学は、平成26年度 文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択されました。世界を変える創造的な人材の育成に力を注いでいます。

